

二〇二四年 広島大本番レベル模試 国語

解答・採点基準

全3問 120分 200点満点

第一問 (80点)

〈現代文 奥村隆『他者という技法——コミュニケーションの社会学〉

解答

問一 a 権化 b 案出 c 戯画 d 緊密 e 背任

問二 「思いやり」があるだけで承認される社会では、他者の「思いやり」が深ければ深いほど、社会が存在証明のあつらえを巧妙に行えば行うほど、私の存在証明の価値と確信が薄れていくという問題。

問三 制裁を受けるかもしれない危険性(十五字)

問四 ウ

問五 1 表舞台での「顧慮と優しさ」というリアリティ(二十一字)

2 「かげぐち」のリアリティが〈思いやりの体系〉を侵食することで、他者の承認をめぐる葛藤が生まれ、「思いやり」自体が維持できなくなるという事態。(七十字)

問六 事実として私は本来「かげぐち」を言わない、というわけではなく、「かげぐち」と「思いやり」の領域を恣意的に分離しているにすぎないことを示唆する意図。

問七 「かげぐち」の領域は〈思いやりの体系〉の自己規制と相互監視のもとにある「主体」を流動化し、開放する場であるが、「主体」が「思いやり」深い自己のリアリティを傷つけないよう慎重に調整されているということ。(百字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という論理関係になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、マルかバツかの二択で判断すること。誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 各2点 計10点

- a 権化
- b 案出
- c 戯画
- d 緊密
- e 背任

* 部分点なし。

問二 12点満点

1. 「思いやり」があるだけで承認される社会、という内容（4点）

* 「思いやり」が制度化（体系化）された社会、といった表現でも可。

* 「」の有無は問わない。（以下、すべての記述問題において同様）

2. 他者の「思いやり」が深ければ深いほど、社会が存在証明のあつらえを巧妙に行えば行うほど、という内容（4点）

* 「思いやり」の希少価値がなくなる、思いやりが溢れ返る、といった表現でも可。「存在証明のインフレーション」の内容を実質的に説明できていればよい。

3. 存在証明の価値や確信が薄れていく、という内容（4点）

* 「価値」と「確信」のいずれか一方が欠けている場合、**2点減点**。

* 文末が「〜問題」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていなければ、**1点減点**。

問三 6点

1. 制裁を受けるかもしれない危険性

* 部分点なし。

問四 6点

1. ウ

* 部分点なし。

問五 6点

1. 表舞台での「顧慮と優しさ」というリアリティ

* 部分点なし。

2 12点満点

1. 「かげぐち」のリアリティが〈思いやりの体系〉を侵食する、という内容(4点)

* 「かげぐち」のリアリティと「思いやり」のリアリティが分離できないことを説明できなければ可。

2. 他者の承認をめぐる葛藤の場となる、という内容(4点)

* 単に「葛藤の場となる」「葛藤が生まれる」などと書いていただけの場合、2点減点。

3. 「思いやり」自体が維持できなくなる、という内容(4点)

* 文末が「～事態」(もしくは、問いの 카테고리 に対応する答え)になっていなければ、1点減点。

* 解答が七〇字以内に収まっていない場合は0点。

問六 10点満点

1. 「本来の私は「かげぐち」を言わない」というわけではない、という内容(10点)

* 筆者は傍点を付すことで、「ほんらいの私は「かげぐち」などいわないのだ」という言葉が思い込みや自己への言い聞かせであることを示している。このことを指摘できなければ、幅広い表現を許容する。

* 文末が「～意図」(もしくは、問いの 카테고리 に対応する答え)になっていなければ、1点減点。

問七 18点満点

1. 主体は〈思いやりの体系〉において、自己規制と相互監視のもとにある、という内容(4点)

2. 「かげぐち」の領域は、そうした「主体」を流動化し、開放する場である、という内容(5点)

* 「主体」が自由を得ることを説明できていれば可。

3. 「かげぐち」の領域は、「思いやり」のリアリティを傷つけないようにされている、という内容(5点)

4. 3のために、「かげぐち」の領域は慎重に調整されている、という内容(4点)

* 文末が「〜こと」「〜もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え」になっていなければ、
点減点。

* 解答が1000字以内に収まっていない場合は0点。

第二問 (70点)

〈古文 賀茂真淵『岡部日記』〉

解答

問一 ① ラ行四段活用動詞「いたる」の未然形活用語尾＋推量(意志)の助動詞「む」の連体形

② 現在推量の助動詞「らむ」の連体形

③ 過去の婉曲(伝聞)の助動詞「けむ」の連体形

④ 伝聞の助動詞「なり」の未然形活用語尾＋推量の助動詞「む」の連体形

問二 ア 自分からの胸騒ぎをせざるを得なかったこと

イ 再会を約束しておく日数

ウ ないのになあ

エ 空が曇ったり晴れたり

問三 母親への心配の気持ちや友人との交流の忙しなさに紛れることが多いということ。

問四 浦風が寒いと都恋しさが募るから、手加減して吹いてくれという意味。

問五 故郷では東国にあると聞いていた富士山を、反対の西の夕日の空に振り返って見ることとなって、遠くへ来た寂しさを感じている。

問六 武蔵と下総の境界にある隈田川を、土地の者を信じて『更級日記』に武蔵と相模の境界の川であるように書いたり、古歌に見られる出羽や紀州のすみだ川と混同し、その古歌にある地名から新しい村ができたりした。(九十七字)

問七 1 d

2 かねてしるしも

採点基準

採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一 各3点 計12点

①

1. 「ら」が、ラ行四段活用動詞「いたる」の未然形活用語尾であることが示せていない場合、1点減点。

* 「いたる」は「至る」「到る」といった漢字表記がされていても可。

2. 「ん」が、推量の助動詞「む」であることが示せていない場合、1点減点。

* 意志の助動詞「む」としても可。

3. 2が出来ていることを前提に、2が連体形であることが示せていない場合、1点減点。

* 2が出来ていない場合は2・3ともに減点。

②

1. 「らん」が、現在推量の助動詞「らむ」であることが示せていない場合、2点減点。

* 原因推量としたものは不可。

2. 1が出来ていることを前提に、1が連体形であることが示せていない場合、1点減点。

* 1が出来ていない場合は1・2ともに減点。

③

1. 「けん」が、過去の婉曲の助動詞「けむ」であることが示せていない場合、2点減点。

* 過去の伝聞の助動詞「けむ」としても可。

2. 1が出来ていることを前提に、1が連体形であることが示せていない場合、1点減点。

* 1が出来ていない場合は1・2ともに減点。

④

1. 「ら」が、伝聞の助動詞「なり」の一部であることが示せていない場合、1点減点。

2. 1が出来ていることを前提に、1が未然形活用語尾であることが示せていない場合、1点減点。

* 1が出来ていない場合は活用形を示せている場合でも不可。

3. 「ん」が、推量の助動詞「む」であることが示せていない場合、1点減点。

4. 3が出来ていることを前提に、3が連体形であることが示せていない場合、1点減点。

* 3が出来ていない場合は3・4ともに減点。

問二 各3点 計12点

ア

1. 「人やりならぬ」を、「(他のせいではなく)自分からの」という意味で訳していない場合、**2点減点**。

* 「誰のせいでもない」などでも可。連体修飾の訳になっていなければ、**1点減点**。

2. 「胸騒がれつること」の「れつる」を、「(胸騒ぎを)せざるを得なかった」や「(胸騒ぎが)自然とされた」など、自発+完了の意味で訳していない場合、**1点減点**。

* 「つる」の完了の訳は「くってしまう」「くってしまった」でも可。

イ

1. 「契りおく日数」を、「再会を約束しておく日数」という意味で訳していない場合、**3点減点**。

* 「再会を」がない場合は、**2点減点**。「くおく」に相当する訳がない場合は、**1点減点**。

ウ

1. 「あらぬ」を、「ない」「存在しない」の意で訳していない場合、**1点減点**。

* 「別の」「望ましくない」などは不可。

2. 「ものを」を、「くくになぬ」など、逆接詠嘆の意味で訳していない場合、**2点減点**。

エ

1. 「空曇りみ晴れみ」を、「空が曇ったり晴れたり」と訳していない場合、**3点減点**。

問三 8点満点

1. (故郷の)母への心配の気持ちが紛れる、という内容がない場合、**4点減点**。

2. (母への心配の気持ちが紛れることが)多くある、という内容がない場合、**1点減点**。

3. 1の原因が友人との交流である、という内容がない場合、**2点減点**。

4. (友人との交流が)忙しない、という内容がない場合、**1点減点**。

* 「どういうことか」という問い方に正対した答え方になっていない場合、**1点減点**。

問四 8点満点

1. 浦風が寒いと都恋しさが募る、という内容がない場合、**4点減点**。

* 「都恋しき」の指摘がない場合は、**2点減点**。

2. (浦風が)手加減して吹いてほしい、という内容がない場合、**4点減点**。

* 「心して」の解釈がなく、そのままの場合は、この項目は不可。

* 「どのような意味なのか」という問い方に正対した答え方になっていない場合、**1点減点**。

問五 10点満点

1. (富士山は) 故郷では東国にあると聞いていた、という内容がない場合、3点減点。
* 「(富士山は) 東国に行く道にあると聞いていた」などとしても可。
2. 今は富士山を西の夕日の空に振り返って見ている、という内容がない場合、3点減点。
* 「西」という方が明示されていない場合は点を与えない。
3. (1、2により) 遠くへ来た寂しさを感じている、という内容がない場合、4点減点。
* 「作者の心情を説明せよ」という問い方に正対した答え方になっていない場合、1点減点。

問六 12点満点

1. もともとは、隅田川は武蔵と下総の境界にある、という内容がない場合、2点減点。
 2. 『更級日記』には、隅田川が武蔵と相模の境界の川であるように書かれている、という内容がない場合、3点減点。
* 『更級日記』を、『菅原孝標が女の日記』や「菅原孝標の女が書いた日記」などとしたものも可。
 3. 2のようになった原因として土地の者を信じた、という内容がない場合、1点減点。
 4. 古歌には出羽や紀州の隅田川がみられる、という内容がない場合、3点減点。
* 「出羽」と「紀州」のどちらかしか書かれていない場合は、2点減点。
 5. 1の隅田川と4の隅田川を混同している、という内容がない場合、2点減点。
 6. 古歌にある地名から新しい村ができた、という内容がない場合、1点減点。
* 「例を説明せよ」という問い方に正対した答え方になっていない場合、1点減点。
* 解答が一〇〇字以内に収まっていない場合は0点。
- 問七 計8点
- 1 3点
 - 2 5点
- * 部分点なし。

第三問 (50点)

〈漢文 劉基『郁離子』〉

解答

問一 a いづれか(いづれか) b のみ c と

問二 (一) 虫蛇之無知、而欲_下以_レ待_レ人者_一待_上之

(二) (無知な) 虫や蛇を待遇する

問三 A 書き下し またわくならずや(またまどはずや)

現代語訳 なんと不合理なことか(なんと混乱したことか)

B 書き下し くんしこれをひとせず

現代語訳 君子はこのことを誤ったことと思わない

問四 怪異な鳥があれば、退治したり巢を根絶したりすべきだという教え。

問五 見た者は死ぬという両頭の蛇を殺すことで、人々がそれを見て怪に襲われないようにするため。

問六 人の命は動物より重いのに、人に害をなしかねない動物を駆除せず人の重い命を危険にさらすのは不公平で人への慈愛に欠けるから。(六十字)

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一 各2点 計6点

* それぞれ完答のみ。

* **すべて平仮名で解答していなければ不可。**

問二 9点満点

(一) 4点

* 完答のみ。

(二) 5点満点

1. 「待」を「**く**を待遇する、**遇**する、**あつかう**、**対応する**」などと訳していなければ、**2点減点**。

2. 「之」を「**(無知な)虫や蛇**」「**蛇やさそり**」などと明らかにして訳していなければ、**3点減点**。

* 「無知な」は無くても可。

問三 15点満点

A

書き下し3点

* 完答のみ。

現代語訳4点満点

1. 「不亦…乎」を詠嘆の意味で「**なんと…ではないか**」「**なんと…か**」などと訳していなければ、**2点減点**。

* 反語の訳は不可。

2. 「惑」を「**不合理なこと**」「**混乱したこと**」などと訳していなければ、**2点減点**。

B

書き下し3点

* 完答のみ。

現代語訳5点満点

1. 「君子」を「**君子**」「**徳のある立派な人物**」などと訳していなければ、**1点減点**。

2. 「不非」を「誤ったことと思わない、とがめない、せめない」などと訳していなければ、**2点減点**。

3. 「焉」を「これを」「このことを」などと訳していなければ、**2点減点**。

問四 6点満点

1. 退治すべき対象として「怪異な鳥」「邪悪な鳥」などと記述した内容がなければ、**2点減点**。

* 「怪異」や「邪悪」については類似する表現でも可。「妖鳥」そのままは不可。

2. 怪異な鳥を「退治したり巢を根絶したりすべきだ」という教え」などと記述した内容がなければ、**4点減点**。

* 「退治すべきだ」という教え」「根絶すべきだ」という教え」のどちらかしか記述されていなくとも可。

* 怪異な鳥を滅ぼすべきだという内容が入っていれば可。「くしてよい、くするのがよい」などといった表現も可。

* 「どのような教えであるか」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

問五 6点満点

1. 言い伝えの内容として「両頭の蛇を見たものは死ぬ」などと記述した内容がなければ、**2点減点**。

2. 孫叔敖の行いの目的として「人々が両頭の蛇を見て怪に襲われないようにするため」などと記述した内容がなければ、**4点減点**。

* 「目的を説明せよ」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

問六 8点満点

1. 「人の命は動物より重い」などと記述した内容がなければ、**2点減点**。

2. 心の持ちようが「不仁」である理由として、「人に害をなしかねない動物を駆除しない」などと記述した内容がなければ、**2点減点**。

* 「人に害をなしうる動物を殺さない」などと書かれていても可。

3. 2の行為について「人の命を危険にさらす」などと記述した内容がなければ、**2点減点**。

4. 2、3の行為が「不公平で人への慈愛に欠ける」などと記述した内容がなければ、**2点減点**。

* 「不公平で」は「私的な利益に囚われ」や「身びいきしており」などでも可。

* 「人への慈愛に欠ける」は「不仁」の解釈が誤っていなければ、他の表現でも可。

* 「なぜか」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

* 解答が六〇字以内に収まっていない場合は**0点**。